

〔豊後高田市〕 昭和の町（しょうわのまち）地区

商店の約3分の2のシャッターが下りていた寂れた商店街を立て直すため、まちなみ実態調査を実施した結果、昭和の姿をとどめた貴重な建築物が多数残されていたことから、それらを逆にまちづくりに活かそうと商業振興に観光の要素を取り入れた「豊後高田昭和の町」づくりが平成13年にスタートしました。

一番活気のあった昭和30年代をテーマに、社会資本整備総合交付金等を活用し、建物や看板等を改修し、賑わいのあった懐かしいまちなみが再現されています。

また、古くなった農業倉庫をリノベーションした昭和の町の観光拠点施設「昭和ロマン蔵」の整備で、観光客は飛躍的に伸び、商店街への回遊性も高まるなど、まち全体の賑わいが創出されており、現在では、年間34万人を超える観光客が訪れ、市を代表する観光地へと成長しています。

